



「アルティメットは楽しいですよ」と能勢さん

輝いています

ひと

アルティメット選手

のせらいと 能勢 雷人 さん

アルティメットを広めたい

投

投げ方しだいで自由自在な軌道を描くフライングディスクを使ったスポーツ、アルティメット。長さ1000メートルのコート端まで届くロングスローやディスクに飛び付くダイビングキャッチなど、ダイナミックなプレーが魅力です。この競技で、選手として活躍しながら、地域での普及や競技全体の技術向上のため活動しているのが能勢雷人さん（31歳・北町1丁目）です。大学で先輩に誘われ、アルティメットを始めた能勢さん。それまでの多彩なスポーツ経験を生かしてすぐに上達し、4年生でU-23日本代表に選ばれ、世界で戦いました。卒業後はその実力を見込まれ、

国内唯一の実業団「文化シャッターバズバレッツ」に入団。持ちまへの素早く精度の高いパスでチームに貢献し、全日本選手権で8回の優勝を経験、2016年には「世界アルティメット&ガッツ選手権大会」で準優勝に輝くなど数々の栄光を手にしてきました。そんな能勢さんは、選手として活躍するなかで、日頃から実業団と大学生の戦術知識や意識の差を感じていました。「自分の経験を生かして競技全体のレベルを上げたい」。そう考えながらも、仕事や練習で忙しく、なにも始められずにいる日々。しかし、昨年の1月、一念発起し、仕事を退職。選手だけでなく、指導者としての道も歩き始めました。現在は、埼玉県のフライングディスク協会に所属し、大学やスポーツクラブで指導するほか、蕨や川口で教室を開催するなど、さまざまな活動に取り組んでいます。「たくさんの人に知ってもらい、触れてもらいたいですね」と、目を輝かせ話す能勢さん。選手として、指導者として、これからも、大好きなアルティメットに関わる道を全力で邁進していきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.46—



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

端正ですっきりとした顔立ちの雄雛と雌雛、一对の立雛がお揃いの着物に身を包み、すっと立ち並んでいます。赤いすやり霞の中に金で描かれた亀甲花菱紋や、緑も鮮やかな松の柄などから、暁斎が格式の高い家から依頼されて描いたであろうことが推察されます。当代一の人気絵師だった暁斎には、お雛様を描いた作品が多く残されており、河鍋家にはさまざまな立雛の下絵も伝わっています。

河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎・暁翠が描いた年中行事・おまつり」展 同時開催「百人お福展—暁翠筆《百福図》をモチーフにしたお福人形—」展

開館=午前10時~午後4時

休館=木曜日・毎月26日~末日

ところ=南町4-36-4

入館料=一般600円 高校生・大学生500円

65歳以上500円 小・中学生300円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。(20人以上の団体は要予約)

詳細=同館 ☎441・9780



暁斎筆「ひな乃図」(部分) 絹本着色 軸装



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください